

電気化学会第 86 回大会「昼食交流会」実施報告

日時 2019年3月28日(木) 12時10分～13時

場所 京都大学 吉田南キャンパス 共西 402

参加者 約 70 名

2019年3月28日(木) 12時10分～13時に、京都大学にて開催された電気化学会第 86 回大会において男女共同参画推進委員会主催で昼食交流会が開催された。

話題提供は電気化学会女性躍進賞の受賞者である白仁田沙代子氏(長岡技術科学大学)と田中優実氏(東京理科大)の2名。事前に会場に関する情報が周知されておらず、分かりづらい会場であったが、当日多くの委員から集客と参加の協力があがり、一般・学生・男性・女性も含め 70 名が参加した。

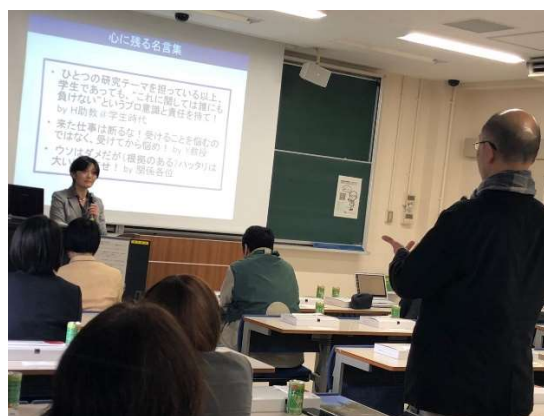
白仁田氏の講演では、自身の研究経歴についての話があり、これまで好きなことを進路として選んで来たこと、両親からも理解が得られたこと、結果として女性が少ない環境にいた、という話があった。その中で折々、偶然女性が多い環境にいたことが、現在のキャリアに繋がったかもしれないと述べられた。民間企業ではなくアカデミアでの研究を選んだのは、企業でのインターンシップの経験から自己を分析して決めたとのことだった。最後に、経験から得たものとして、その時にしかできないことを精一杯やる、たくさん悩んで自分で決める、逃げない・諦めない、変化を恐れないといったメッセージが参加者に届けられた。

田中氏の講演では、民間企業からポスドクを経て今に至るまでのキャリアについて紹介があった。文系から理系に転向したこと、実姉が理系のロールモデルであり両親からも理解を得られていたことが述べられた。そこから得られたメッセージとして、特に、学生でもプロ意識を持つ・ウソはダメだがハタリは OK・来た仕事は受ける、受けた後悩め、という3つの教訓は会場の参加者にも響くところがあった。さらに、一つの選択をする際には、完璧な条件はまず得られないので、優先順位をつけ冷静な判断が求められると伝えられた。また、自分で研究室を立ち上げるための事前準備についても具体的なメッセージが寄せられて、会場からうなずく様子も見られた。

今回もこれまでと同様、若手からベテランまで男性の参加者が多く関心の高さが示された。特に会場からの質問は男性からが多く、女性研究者がまだまだ少ないのは理系に進学する女子学生が少ないのも一因であり、それを増やす施策はないか、などがよせられ、研究者が性別によらず活躍できるための環境を重視している様子が見えたと感じた。



白仁田氏の講演



田中氏の講演